**第59回十六高校対抗水上競技大会**

－第7回運営委員会－

平成25年10月19日 (土)

於　都立青山高等学校

欠席校　北園・京華商業・麹町・小金井北・駒場東邦

筑駒・東大附属・戸山・文教大付属・三田

去る10月19日 (土) に行われました第7回運営委員会の議事内容をお知らせ致します。

～議事内容～ 　　　　　　～配布資料～

１．宿題、アンケート結果に関して　　　　　　　　　　　　アンケート集計結果

２．プログラムの報告　　　　　　　　　　　　　　　　プログラムデータ流出の件について

３．次回の運営委員会について　　　　　　　　　　　　　新宿高校に対する処罰の提案書

\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_

1. **宿題、アンケート結果について**

・前回(9月)の運営委員会で各校への宿題とした『プールサイドの利用状況を考慮し、マネージャーやOBOG、中学生のプールサイド応援を可能にする案』を班ごとに意見をまとめ、発表した。

【1班】

・マネージャーは各校一人がプールサイド応援できるようにする。しかし、OBOGと中学生は現役選手ではないという観点からプールサイド応援はできないものとする。プールサイドの利用状況が改善しない限り、プールサイド応援の人数を増やすのは難しい。

・靴、サンダルは置くのではなく自分のカバンに入れる。

【2班】

　・総務から運営委員、そして現役へという注意事項の伝達が上手く伝わっていない。

　　→(対策)大会前に運営委員が直接各校に行き、現役に直接伝える。

　・応援整理券、選手票の裏面に注意事項を記載しておく。

　・保護者の方々へは各校から注意事項を紙媒体にして配る。

【3班】

　・中学生、OBOGのプールサイド応援は許可しない。マネージャーは許可する。

　・サンダルの置き場所などといった注意事項は、各校に大会前に伝える。

【4班】

　・マネージャーのプールサイド応援は許可する、選手票にハンコを押すなどマネージャーであると分かるものを提示してもらう。

　・OBOG、中学生に関しては人数制限を設ければ、プールサイド応援は可能なのではないか。

→まずはマネージャーは各校一人降りられるようにしていきたい。そのために、ウッドデッキに人が溢れてしまうことによる問題の解決策、注意事項の伝達手段を今後より具体的に考えていきたい。

※プリント『アンケート集計結果』参照。

・役員Ｔシャツ→大半がどちらでも良いという意見が出ている。

　　　　　　　　資格の有無はバッジでわかる、役職・経験年数が書かれたシールを全役員が付ける。

・二日目の800ＦＲ、400ＦＲのリレーオーダー締め切りを予選競技終了後にすることを今後CP役員と相談し検討する。

・表彰式は、今後読み上げる学校を減らすなど時間短縮できるようにしていきたい。

1. **プログラムの報告**

※プリント『プログラムデータ流出の件について』『新宿高校に対する処罰の提案書』参照。

・大会前にプログラムデータが意図的に流出したという事実が発覚。その経緯と状況を役員担当の松澤より説明。当事者である運営委員長と新宿高校ヘッドコーチからの謝罪。その後、新宿高校に対する今後の処罰案を総務から提案し、代替案に関して議論し多数決を採った。

【事情説明】

・運営委員長

　　『8月9日の青山学院高等部で行なわれた役員研修の後、新宿高校ヘッドコーチと話していた。当時入稿する予定だったプログラムデータの入ったＰＣを持っていた。「正選手、オープン選手のエントリーを確認したい。」と言われたので、データをＥメールで送った。8月18日のJSCA大会で、ヘッドコーチが紙に印刷したプログラムデータを現役選手に見せていて、他校の選手も見ていた。流出の事実を知ったのは前日準備の時で、自分のしたことが原因であるとは気づかなかった。大会一日目の総務の調査によって詳細が判明した。今回の責任を重く受け止め、この場で総務並びに運営委員長の職を辞任する。』

・新宿高校ヘッドコーチ

　　『エントリーの確認をしたいと運営委員長に頼み、メールでデータを受け取った。紙に印刷したものをJSCA大会に持っていき、現役選手が見ることを許可した。他校の選手が見ていたことまでは把握していなかった。』

【新宿高校に対する処罰について】

(総務による提案)

→リレーを含む全種目において選手はOP参加とする。人数制限は設けない。また運営委員や競技役員など運営面での協力は例年通りに要する。

【処罰に関しての質問と意見】

・新宿高校から罰金を徴収するのはどうか。(新宿)

　→来年入学する生徒など高校生から罰金を徴収するのは難しい。

・プログラムを事前公開するべきではないか。(都立青山OB)

　→処罰とは別件として扱い、今後検討していく。

・総務として今後こういった件が起こらないようにするための予防策をどう考えているのか。(都立青山OB)

　→意識改革を行なっていきたい。今後具体的に検討する。

・全種目OP参加ではなく、役員を多く出したり入場順を遅らせるという最小限の処罰はどうか。(都立青山)

・今後こういった事件が起きないようにするためにも厳しい対応をすべきである。(成瀬)

→時間を設けて、各班ごとに処罰の代替案をまとめ発表した。案は以下の通りである。

【1班】

　　・出場停止が妥当である。

【2班】

　・入場順を遅らせる、掃除、役員を多めに出す、運営委員会の会場を一年間提供するなど複数の案を組み合わせる。

【3班】

　　・エントリー種目制限、正選手の枠を削る。

【4班】

　　・あらかじめ得点のハンデをつけておく(マイナスからはじまるなど)。

【多数決】

・①一年間の出場停止、②2班の提案したいくつかの案の組み合わせ、③エントリー種目の制限、また②の案もいくつか組み合わせる、④得点のハンデ、③と同様に案を組み合わせる、⑤全員のOP参加の五つの選択肢で多数決を行なった。

・投票人数：全20校(全32校中、欠席10校、途中退出2校) →多数決の結果、②に決定。

**３．次回の運営委員会に関して**

　・来月(11月)は9、30日の二回を予定している。今月中に会場借用のメールを送るよう伝えた。

以上